



# 北中だより



<http://nk-kitanaka-j.la.coocan.jp/>

中野区立北中野中学校

## ★人との接し方をもう一度見直しましょう

校長 津村 慶

11月は「ふれあい月間」として、東京都全体で「いじめや人権について見直す期間」として取り組んでいます。前期の終業式と後期の始業式で生活指導主任の岩淵先生からも話があったように、皆さんの学校生活でも、少し立ち止まって考えれば起こらないようなトラブルが起きています。皆が嫌な気持ちにならずに過ごせるよう、一人ひとりが改めて普段の生活を振り返って気を付けてほしいと思っています。第41回全国中学生人権作文コンテストで入賞した横浜市の中学3年生(匿名)の作文を読んで考えましょう。

### 気づきたい「笑顔」

「○○菌だ！逃げろ～」一人の子に向かって言い、走り出すみんな。それが小学校二年の頃のある日に始まった。私もみんなが言っていたし、言われている子も笑って「やめてよ～」と冗談交じりに言っているように聞こえたから一緒に言った。

それが始まって数日が経った朝、先生が「○○さんを菌扱いた人は自分から名乗り出て。」と言った。すごく怒っている様子だった。その瞬間、心臓がバクンッと鳴り、教室でヒソヒソと話す声が次第に大きくなっていくのを感じた。数分経っても一人として名乗り出ることはなく、痺れを切らした先生は一人ずつ名前を言っていた。呼ばれた子は「おい、お前もやってただろ！」と他の子の名前を言い、徐々に言っていた人が明らかになっていった。

だが、私の名前は呼ばれなかった。ホッとした。だって、みんなと比べて私は一、二回しか言ったことがないから、私は同じにはならない。そうだ、そうに決まっていると思込もうとしていた時、「あれ、○○もやってたよね？」自分の名前が呼ばれた。頬からつま先まで冷えきっていくのを感じる。「え、私？」咄嗟に知らないふりをしてしまった。「あ、そうじゃん。言ってたよね。」という声が聞こえてくる。その声は多分小さくて、他の人には聞こえてなかったかもしれない。しかし、私の脳内には、その言葉が繰り返し聞こえ、嘘をついている苦しさが頭に打ちつけてくるように感じた。

言った人たちが先生に怒られた後、その人たちからこんな声が上がった。「なんで俺たちが怒られなくちゃいけないの？」「だってあいつ笑ってたじゃんね。」「言われて嫌なら、嫌って言えよ。」自分は悪くないと私たちは壁を作っていた。そして、私も悪くないんだと勝手に解釈した。先生は「今日あったこと、自分が何をしてしまったのかをちゃんと親御さんに伝えてください。」と言っていた。けれど、私は悪いことをしていないから話すこともないと自分に言い聞かせ、親には言わなかった。

次の日の朝学活で先生が「昨日のことをちゃんと親御さんに伝えた人は手を挙げてください。」と言った。次々に挙がる手。みんなが挙げていくのを見て、私は汗が止まらなくなっていった。ここで挙げなければ、私はみんなから白い目で見られる…。私は小さく手を挙げた。罪悪感で包まれて、その日は一日中気持ちが沈んだ。

私は家に帰ったら自分がしてしまったことを親に伝えなければいけないのだと思った。でも、母にしっかり説明すればきっとそんなに怒られないだろう。大丈夫。そう思い込んで説明した。その途端、母の顔は青ざめていき悲しそうな声でこう言った。「相手は笑うことしかできなかったかもしれないでしょ。笑っていたとしても、その子は傷ついていたと思うよ。」今まで作ってきた壁が壊れたような気がした。母はその言葉を言った後、その子の家にすぐさま電話をして何度も謝っていた。母からの信頼を失ってしまったこと。変なあだ名をつけてからかってしまったことへの罪悪感で吐きそうになった。

【次の頁へつづく】

私もその子に謝罪することを決意した。謝ることで、その子の心の傷が治るわけでもない、許されることではないと分かっていた。分かっていたけれど、私には謝ることしかできなかった。翌朝、その子に謝りに行こうとした時、拒絶されるのが怖くて足がすくんだ。でも、私のこの恐怖よりも、その子はもっと怖かったのだらうと思い出し、勇気を振り絞って謝罪した。その子は「大丈夫だよ。」と優しい声で言い、私を拒絶なんてしなかった。その瞬間、全身についていた重りが外されたように感じた。ああ、なんてこの子は優しい人なのだろうと心から思った。

私はこの出来事を一度も忘れたことはない。変なあだ名でからかわれているときのあの子の笑顔。あの笑顔は上辺だけでは分からない気持ちがあったのだと思うと後悔が押しよせてくる。私はこの事があってから、誰か冗談でイジられていたとしても、その子の顔色や傷ついていないかを見て後から声をかけるようになった。そうするようになってから、周りの子たちから思いやりがあるとと言われるようになり、たくさんの良い友達に囲まれている。

私は一生の後悔を胸に刻み、二度と同じことはしないし、傷ついている人を助けようという気持ちを忘れず、今日を生きていこうと思う。

作文中の出来事は小学校二年生の時のことです。中学生の皆さんは、さすがに誰かを「菌扱い」するようなことはしないと思いますが、相手が傷ついていないと思いついでからかかってしまうことはあるかもしれません。生活していく中で、失敗してしまうことは誰にでもあることです。しかし、その失敗をしっかりと反省し、二度と同じことを繰り返さないよう、その後の生活に生かしていく作者のような決意が大切です。どんなに仲が良くても、相手をからかって楽しむような幼稚なことを大人は決してしません。皆さんは、もう子どもではありません。誰に対しても正しい関わり方ができるよう、改めて考えてください。

## 避難所運営訓練を行いました！

コロナ禍で数年間実施していなかった北中野中学校避難所運営訓練を9月8日(日)の午前中に行いました。当日は中野区災害対策鷲宮地域本部を始めとする地域の避難所運営本部の方々や地域の方々など33名が集まりました。最初に中野区役所防災危機管理課の方から、発災時に想定される中野区の状況や避難所を開設する際の注意点などの話をうかがい、その後、体育館でマンホール・トイレの組み立て訓練を行いました。北中生も定期試験前の週末でしたが、3名の生徒がボランティアとして参加しました。元日の能登半島地震で始まった今年は、震度5を超える地震がこれまでに10回以上発生しています。久しぶりに訓練を実施することができ、改めてもしもの時の備えをしておくことの大切さを実感しました。



## 中野区中学校総合体育大会・連合陸上競技大会

9月24日(火)、千駄ヶ谷にある国立競技場で連合陸上競技大会が行われ、区立中学校9校に区内の私立、国立、都立を加えた13校が競い合いました。北中は夏休みに入ると同時に練習を始め、9月に入ってから朝練を中心に準備を進めた結果、陸上部がないながらも女子総合4位、男子総合5位になりました。

また朝から競技場周辺のオリンピック関連施設を中心に校外学習をしていた3年生がお昼から競技場に集まり、全員でトラックを走る「FUN RUN」体験をしました。また、大会出場選手以外の3年生40名で競う「40人選抜リレー」にも出場し、区立中学校9校の中でダントツの1位でゴールしました。

オリンピックをはじめとする世界的なスポーツ大会が開催される国立競技場を走る経験は出場選手や3年生にとって良い思い出になったことと思います。



## 素晴らしい生徒会役員選挙でした!!

後期からの1年間、全校の先頭に立つ新生徒会役員を決める選挙が9月27日(金)に行われました。今回の選挙では、会長(2年生1名)、副会長(2年生1名)、総務(2年生2名)のポストは定数どおりの立候補者への信任投票となりましたが、副会長(1年生1名)には3名、総務(1年生2名)には4名が立候補しての投票となりました。

立候補者はこれまで、ポスターを作成して校内に掲示する他、校門に立って登校する一般生徒に呼びかけたり、昼休みには政見放送で公約を訴えたりするなどの選挙運動を行いました。また、立会演説会では立候補者とその応援者が投票直前の最後の演説を行いました。堂々とした態度で訴える姿がとても立派で、全員が生徒会役員にふさわしいと感じました。

立候補者が重なったポストでは僅差での決着となりましたが、無効票となる投票が全校で1票しかなく、投票した一般生徒も素晴らしい選挙でした。



## 「笑顔あふれる北中野ファミリー」NEWS !!

### 【保幼小中連携】小学校6年生の部活動体験

9月17日(火)の5・6校時、武蔵台小学校と上鷺宮小学校の6年生194名が来校し、部活動体験を行いました。

事前に希望を取り、若干の人数調整をおこなった体験でしたが、どの部活動も小学生が楽しそうに活動している姿が印象的でした。半年後の進学に向けて、中学校生活への不安が少しでも楽しみに変わることを期待しています。

一方、小学生の体験をサポートする北中生も優しく丁寧に教えていて、普段以上に大人びて見るとともに、相手に合わせて対応できる北中生の良さが感じられました。

区立中学校の中でも部活動が盛んな北中ですが、来年も多くの新生を迎え、部活動がより活気づくことを願っています。



### 【保幼小中連携】かみさぎ幼稚園の運動会にボランティアで参加

10月6日(日)、連携するかみさぎ幼稚園の運動会に北中生がボランティアとして参加しました。前日の土曜日から雨天で順延された実施でしたが、3年生2名と1年生1名が都合をつけて参加してくれました。

午前中半日の開催でしたが、各種目の合間にすばやく道具の出し入れを行ったり、種目中はゴールテープをもって園児を迎えたりと、幼稚園の先生方と一緒に様々な仕事に取り組みました。後半の保護者競技では、3色玉入れの籠を背負って保護者の間を走り抜けるなど、中学生ならではの役目もあり、大活躍の様子でした。

3年生は11月に家庭科の保育実習でもかみさぎ幼稚園を訪れますが、授業以外のボランティアに積極的に参加して貢献したことは、北中生としてたいへん誇らしいことです。

受け入れてくださったかみさぎ幼稚園にも感謝いたします。

